

風しんの予防接種費用を助成します

現在、これまでにない規模で風しんが流行しています。特に、免疫のない女性が妊娠中に感染すると、胎児に重大な影響を及ぼすことがあります。

市では妊婦への感染予防を強化し、先天性風しん症候群の発生を予防するため、風しん単独ワクチンまたは麻しん風しん混合ワクチンの予防接種費用の一部を助成します。

◆助成期間

平成25年4月1日^㉑～平成26年3月31日^㉒

◆助成対象者

茂原市に住民登録がある20歳から49歳の方で、次に該当する方（年齢の基準日は接種日が基準となります）。

- ① 妊娠を予定、または希望している女性
- ※妊婦の方は予防接種は出来ません。接種前1カ月また接種後は2カ月間の避妊が必要です。
- ② 妊婦の夫

◆助成額(助成は一回限りです)

- ① 風しん単独ワクチン 上限3,000円

② 麻しん風しん混合ワクチン 上限5,000円

(接種を希望する方)

- ① 7月1日^㉑から、健康管理課で予防票を配布します。来庁時は、接種希望者の保険証、母子手帳（妊婦のみ）を持参ください。
- ② 市の契約医療機関に事前に予約し、予防票を提出してワクチンの接種を受けてください。
- ③ 接種後、助成額を差し引いた額を医療機関の窓口でお支払いください。

(すでに接種された方)

平成25年4月1日～6月30日までに全額自己負担で接種を受けた上記の助成対象者は12月27日までにワクチン接種時の領収書の原本、予防接種済証（各医療機関で発行）の写し、本人の振り込み口座の通帳、印鑑、母子手帳（妊婦のみ）を持って、市健康管理課へお越しください。

お問い合わせは、

市健康管理課（2階）

TEL 201574、FAX 2016000へ。

市長が行く



茂原市長 田中豊彦



地域医療の再生をめざして 公立長生病院の未来

皆さんは、覚えていらっしゃるでしょうか。

私が市長に就任してまもない平成20年の初夏、公立長生病院を使って「Tomorrow—陽はまた昇る」というドラマが撮影されたことを。膨大な赤字を抱えた閉鎖寸前の病院という、あまりありがたくない設定でしたが、当時はまさに公立長生病院もそのような状況で、この地域の医療問題は大変深刻でしたし、その解決は私の一つの大きな目標でした。

今、ここへきて公立長生病院の新A棟の建設が始まりました。ドラマの撮影で使われた旧A棟（主に屋上）の老朽化は著しく、3・11以来改善は急務だとずっと考えておりました。今回の建て替えは、国からの地域医療再生交付金1億8千万円を含む6億円強の予算で、救急棟

の整備も視野に入れて行います。これにより、今現在、救急処置室での対応は患者1人ずつですが、同時に2人まで受け入れることが可能となります。また、A棟はリハビリ棟が併設されていますが、医療スタッフの待機場所であり、事務職の使用する場所でもあるので、病院の中核を担うところでもあります。万が一、そこが潰れたりしたら大変なことになってしまいます。今回、このようにようやく前向きな方向での対策が、打てるようになったことを、私はとても嬉しく思っています。

公立長生病院は、私が市長に就任するまで、ずっと赤字決算が続いていました。しかし、平成22年度から3期続けて黒字決算（平成23年3月・1億4千万円、平成24年3月・1億1千万円、平成25年3月・1億6千万円）になり、45億円近くあった負の資産も約40億円まで減ってきました。これにはいくつかの

秘策がありました。ひとつは、財務省からの約20億円の高金利の借り入れ金を低金利のものに切り替えることが出来たこと。またひとつには、病院のベッド数を230床から180床に減らすことによって、診療報酬が上がったこと。他にも様々な手を打ってきた成果が、このようにはつきりと現れてきました。もちろん桐谷院長をはじめ、医療スタッフの皆さんが一丸となつて、病院改革を進めてきたことも大きいです。財政が黒字化したことは、公立長生病院の未来にとって明るい材料です。

しかし、それでもまだ医者数は少なく、看護師も不足している厳しい現状があるのですが、とにかく、今後もこの地域に暮らす人々が、安心してより良い医療を受けられる病院にしたいと考えています。明日もまた陽が昇ることを信じて。